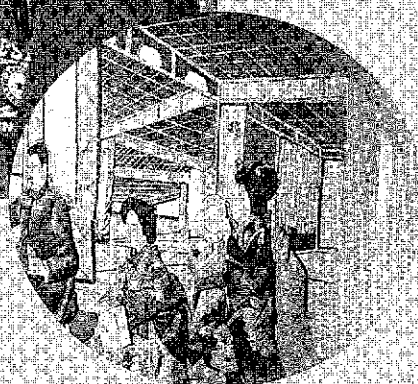




巻町指定文化財「のぞきからくり」



のぞき穴

表紙 昭和初期まで縁日を
にぎわせた大道芸
のぞきからくり
(巻町公民館)

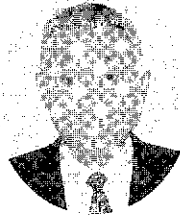
特集 人権・同和教育

視 点 地域おこしは文化おこし
ひろば 「いま、公民館活動に思うこと」
実践記録シリーズ 「いたくらふるさとマナビイ講座」
サークル交流 彩美会 (村上市中央公民館)
卓球サークル オレンジ (亀田町公民館)
素顔拝見 穂刈美枝さん (長岡市)
山田ひろみさん (神林村)

平成10年度 文部大臣表彰の栄に浴す

◆全国優良公民館表彰に

糸魚川市中央公民館



文部大臣賞を受賞して

糸魚川市中央公民館長 山川 資郎

このたび、図らずも文部大臣表彰受賞の栄の浴しまして、職員一同恐縮やら感激いたして、いるところでございます。

十一月二日霞ヶ関ビルにおいて、全国三十八館の一館として文部大臣から直接表彰状を賜り、更に皇居・波の間にて天皇・



糸魚川市中央公民館

皇太后陛下の拜謁を受け、ねぎらいのお言葉を賜りました。これもひとえに、県ご当局をはじめ県公民館連合会役員、ご交誼いただいた県内各公民館関係者各位のご指導の賜と、心から厚く御礼申し上げます。

当然のことながら、当市における公民館関係者・一般市民の協力はもとより、職員の努力の成果については、言うまでもありません。

ここで改めて当市の公民館を紹介いたしますと、昭和六十一年度から中央公民館制を取り入れ、市合併前の旧町村別にあった独立館を地区館とし、大きな地区においては支館を配置するといった組織体制をとっております。地区館は、当時としては先駆的な、地域に管理運営を委託する方法でスタート。職員は、館長以下三名体制です。

当中央公民館は、全市にわたる事業と各地区館の指導・援助

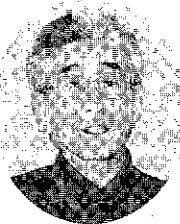
が主業務で、館長以下六名の職員で、地区館としての糸魚川公民館と、隣接の勤労青少年ホームをも重複担当しております。主な事業としては、青少年事業には、ワタワタ探検隊と銘打った縄文時代を体験するジュニアリーダー育成事業や、市内の若者団体が一堂に会す大イベントの若者仲間づくり事業等。また壮年向けには、男の料理教室や、早く当市になじんでいたための転入奥様スクール。高齢者向けには健康講座をはじめとするバラエティなシルバークラスを実施。このように、生涯各期における多様なニーズに対応した事業を展開しております。

また、人間関係が希薄な現代社会において、交流の輪を広げるべく世代間交流や、学校の完全週五日制や児童・生徒の環境浄化のための学社連携にも力を投入しております。

ところで、当市では、本年七

◆社会教育功労者表彰が

当連合会上村捨二郎顧問に



去る11月26日(木)東京・東條会館「曙の間」に

於いて平成10年度社会教育功労者表彰式が行われ、当連合会顧問上村捨二郎様がその栄に浴されました。誠にめでとうございます。

上村顧問のご功績は、皆様既にご存じのように、再度にわたり県教育庁社会教育主事として活躍され、この間県公民館職員講習内容の刷新充実、公民館における社会教育の総合的推進に

月に行政組織機構の改革を行いました。ただ、公民館組織の見直しと施設の管理については、平成十一年度実施に向け、現在庁内で検討を重ねています。

基本的には、これからの公民館のあり方といわれおります現在の地域主導型の公民館体制を踏襲しつつ、これに市民ニーズとして改めてでてきたコミュニティ活動と、行政機関として

中心的な役割を果たされ、とくに、第26回全国公民館大会新潟大会開催の折には、大会事務局業務の実質担当者として大成功に導かれました。

昭61・4からは平9・3までは当連合会事務局長として、公民館月報の編集発行、県公民館大会の開催等恒常的な事業のほか、職員研修の資質向上に最大の努力を傾注され、また、第32回関プロ公民館研究会湯沢大会の大会事務局長として大活躍されました。

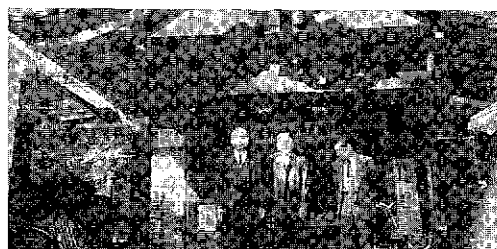
ご著書の「感動をキーワードに」「公民館冬物語」は、公民館人の指針となっております。

の窓口的なパイプ役、更には、あらゆる情報の発信・受信機関としての役割などの付加価値を高め、体系的なものにできればと考えております。

最後に、表彰の栄に恥じないよう、公民館が一層発展するべく職員一同努めて参りますので、従来にも増して関係各位のご指導とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

新潟市公運審 県外先進地視察参加記

平.10.11
12(木)・13(金)



柏崎市の旧邸を移築した市川市中央公民館

新潟市坂井輪地区公民館
運審委員としてお手伝いし
ている関係上、標記研修に
参加する機会を得た。

公運審制度のあり方が主
テーマではあるが、ここで
は紙面の都合で、その概要
について紹介したい。

第一日目の前橋市中央公
民館は、集中方式で設置し、
各地区館には運営推進委員
会を置き、円滑な運営を行
えるよう配慮している。

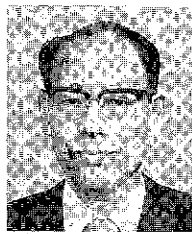
ゆったりと広い施設の中
で、大変充実した事業展開
がなされ、また講座修了生によ
るコーナーを利用した絵画展
等、強く印象に残った。そして
職員の方々の暖かい接遇も心
に染み込んだ。

第二日目の市川市中央公民館
も集中方式で設置し、10人と
いう少数精鋭主義をとっている。

公民館と市民を結びつける愛
称を募集、「ミィ・ティアム」(ミィ
ティンとミュージアム)の造
語とし、親近感を持たせるよ
う配慮している。また、超近代
的な施設生涯学習センターとの
連携事業を考慮中とか。

「いま、公民館活動に思うこと」

豊栄市中央公民館運営審議委員長
本間重蔵



公運審
として、
今改めて
公民館に
ついて考
えてみた

公民館は戦後荒廃の中で
生まれたもので、生涯学習
はその後生涯教育として発
足し、更に生涯学習となっ
た。生涯学習制度が発足し
てからとかく市民は戸惑う
ことがある。

最近、文部省では公民館
建設費補助金を打ち切り、
また「公民館は民間委託に」
などと発言している。やが
て「公民館不要論」が出な
いかと心配である。しかし、
公民館はあくまで、「公民」
としての学習と活動の館であ
り、人づくり、町づくりの場
である。その使命は大きい。

ところで公民館の研修会など
では人づくり、地域づくり、家
庭教育、青少年問題など教育に
ついて学習してきたが、「本県
の教育、子供の進路」について
果して話し合ってきたらどうか。
本県は教育後進県とも言われ

る。即ち、幼・保比率では保育
園が、小、中学校では僻地校、
小規模校、複式学級が全国上位
である。中学、高校では私立校
が少なく、そして専門学校、予
備校が多く、大学が少ない。専
門学校への入学率は四年連
続全国一位であるが、大学
進学率は毎年全国下位で、
本年ようやく三八位になっ
た。これは県が平成五年か
ら「大学進学率向上対策事
業」をすすめ、また大学の
新設によるものである。

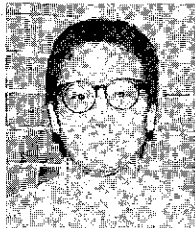
同じ農業県で隣りの富山
県は全国九位、石川県は六
位、福井県は一位(平成七
年)と毎年上位である。聞
くところでは、これらの県
の父母はお互いに幼児の頃
から大学進学について日常
会話の中に話し合っていると
いう。先に新潟市で「大学進学
シンポ」を開いたが、これは本県
では画期的なことである。

最後に、本県はかつて公民館
活動の先進県と言われた。われ
われは公民館活動のなかで、「県
の将来、子供の将来」について
も話し合いの場を望みたいもの
である。

視 点

平成十
年、二度目
の「新潟・
香港文化交
流」を開催
した。

五月に香
港を訪れ、
新潟を紹介する千百五
十二枚の写真を展示し
た他、香港の人達と一
緒に木版染めのきもの
を共同で制作した。



会場は「香港視覚芸
術中心」、言ってみれば
公民館といったところ
り。小さなホールがあ
り、会議室、研修室が
ある。

香港公園の中に位置
し、休日是一日中、家
族連れやカップルが訪
れる建物である。

きけば、香港の人達
は学校で、木版画や、
言わゆる「イモ版」式
の版画を習わないとの
ことである。

地域おこしは文化おこし

尾身伝吉

日本から持参した、
小型の木片に染料をつ
けて布に押す作業に、
皆熱中していた。

大げさに言えば、日
中共同製作の木版染め
きものが二枚でき上
がった。

ささやかな文化交流
事業であるか、今後も
続けていきたいと考え
ている。

できれば、公民館単
位で参加していただい
たら一層充実したもの

ささやかな文化交流
事業であるか、今後も
続けていきたいと考え
ている。

できれば、公民館単
位で参加していただい
たら一層充実したもの

教育事業の紹介

第 4 面

上越市における社会同和教育



現 地 で 学 ぶ 学 習 会

一、県内初の条例施行

「同和教育」の根本的かつ速やかな解決その他の人権擁護に関する基本的な事項を定めるとともにその積極的な推進を図り、もって差別のない明るい上越市の実現に寄与する」：上越市では、平成九年三月議会で、県内では初めて、差別撤廃を目的とした条例を定めました。この条例では、市の責務、市民の責務を明確にし、また、教育関係では「同和」問題に関する正しい認識の確立、人権意識を高めるための教育活動の充実、人権啓発指導者の育成などを掲げています。

上越市では、これまでも市長部局、学校、教育委員会が一体となって「同和」教育、人権教育を進めてきましたが、条例施行により、さらに市民の参画を求め「同和」教育、人権教育の推進に努めています。

そうした取組の中から、社会同和教育について紹介します。

二、現地で学ぶ学習会

差別をなくし、「同和」問題に関する正しい理解と認識を深め

るには、差別の実態や地区の実情を知ることが大切なことから、現地学習会を開催しています。

現地学習会は、小・中学校教職員、リーダー育成講座参加者、企業等を対象に、年間十五回程度開催。「同和」地区内を歩き白らの日では差別の実態を学ぶとともに、地区の方々から差別事件などの話をうかがい、問題の根の深さや、今後の教育の進め方などについて、活発に意見や質問が出されています。また、将

上越市における社会同和教育

上越市教育委員会社会教育課

来の教育活動に生かしていただくことを目的に、上越教育大学生を対象とした現地学習会も行っています。

三、同和教育推進の中核施設白山会館

「同和」対策事業や地域の社会教育活動の中核となっているのは、地区内に設置されている白山会館です。

ここでは現地学習会のほか、地区の小・中学生を対象とした

らお年寄りまでが参加した、地域交流の場ともなっています。

業

四、テーマ別に行う市民啓発事業

あらゆる差別をなくし、すべての人々が個性を尊重し合い生き生きと暮らせる環境をつくっていくためには、広く市民を対象とした「同和」教育、人権教育の推進は欠かせません。

このため、市民啓発にあたっては、「同和」問題を初め、子どもと人権、女性など、テーマを設定しての研修会や講演会を地域単位で開催。ほかに、PTAや青少年育成協議会など、団体主催の講演会も開かれています。また、教育委員会では、各機関、団体の「同和」問題、人権問題研修会へ、社会教育指導員を派遣しています。

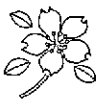
心の豊かさが求められている今、上越市では、共に学び共に考え、差別のない明るい社会を築いていくため、今後も市長部局の同和对策室、学校、教育委員会が一体となって「同和」教育、人権教育の一層の推進を図っていきます。



中 核 施 設 白 山 会 館

学習会を週二回開催。小・中学校の先生方の協力を得、学力向上を図るとともに「同和」問題、人権問題についても学んでいます。一方、会館へ訪れた人が自由に学べるよう、関係図書やビデオを置き、貸出しもしています。

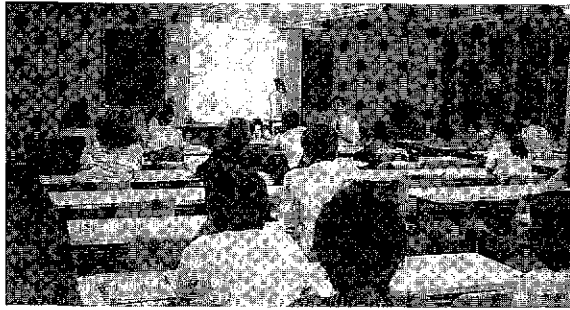
白山会館では、親子・地域の触れ合いを深めようと、お祭りに合わせた民謡講習会、正月や季節に合った料理教室、生け花教室なども開催。「若い人ももっと参加して」とレクリエーションダンスも行うなど、子どもか



特集 人権・同和

第5面

新潟市における人権教育



憲法講座

新潟市においては、平成元年「新潟真景」事件に端を発し同和問題がクローズアップされ、同和对策体制、職員研修、同和教育、市民啓発の基本となる「新潟市同和对策基本方針」が、平成5年3月に制定されました。現在、市の啓発事業展開として「憲法記念市民のつどい」(総務課)と、当中央公民館における「憲法講座」が行われていきます。「憲法講座」は、昭和52年からの歴史をもち、今年は22回目となるロングラン講座です。

新潟市同和对策基本方針が制定されたことにより、平成5年度からは、「人権と差別」をテーマとして講座を組んできました。

「人間を差別する」とはどういうことなのか「人権」を守るとはどういうことなのか、差別のない明るい社会をつくるにはどういふ社会をつくることなのか、「憲法講座」を通して考えてみたいと思われました。

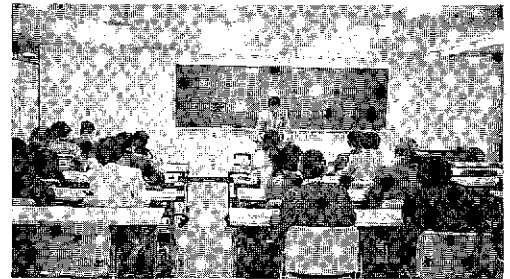
平成8年には、「子どもの人権」、同9年には、「人権にかかると諸外国の対応」や、「戦後の女性史における性差別」と題した女性問題に関する内容も取り入れられました。

今年度は、最初に人権と差別というものについての概観をつ

人権教育の推進

新潟市中央公民館

社会教育主事・主査 樋口栄子



熱心な受講風景

かみ、2・3・4回目で具体的な事例を参考として「人権」「差別」の問題を考え、5回目で全体のまとめと今後の方向について考えてもらおうという内容でした。

講座の形としては標準的であり、特に目を引くものはありませんが、内容的には受講者の意識に響いたものが多かったようです。特に、「県内の同和问题の現状と今後の課題」で、スライドによる視覚に訴える事象から、北越雪譜、破戒、小川未明の作品、中山英一の差別思想を

通し、受講者に差別の歴史を学んでいただけたかと思えます。今後は、受講者のアンケートからも、同和教育の意識改革(身近な差別意識の改善)を中心とした事業の重要性を再認識しているところと見えます。同和问题がどのようにして生まれたのか把握し、考え、話し合い、正しい知識を得、差別をしない行動をとることが、「同和问题」解決への第一歩となるのではないのでしょうか。そして、今までノーマル(普通)だと思っていたことが、どのレベルでの「普通」なのか、

「普通」だと思っていたことが、(普通)だと思っていたことが、どのレベルでの「普通」なのか、

と、強く感じた次第です。

総務庁による昭和60年と平成5年の意識調査を比べてみると、国民の差別意識が着実に解消に向けて進んでいることがわかります。差別意識は、結婚問題を中心として依然強く存在していますが、「子どもの意見を

尊重する」親と、差別意識にとらわれずに「自分の意志で結婚する」青年が増加しています。

しかし、新潟市内においては、この10年位の間で、明鏡高校差別事件(昭和59年)、関屋浜差別落書事件(平成6年)と後を断ちません。このことは、一層の啓発と教育によって、同和人権問題についての正しい理解が求められている証左であります。

従いまして、市内10地区公民館においては、女性セミナーや家庭教育学級の中で人権問題の視点を取りあげ市民啓発につとめ、正に、生涯学習の不变のテーマと考えております。

この他に、市民全体の啓発活動としては、リーフレット「一人ひとりの人権が尊重される社会をめざして」(新潟市・新潟市教育委員会)を昨年度から発行しています。

内容は、同和问题、女性問題、子どもの人権問題、障害者問題、外国人問題の5項目について書かれています。

また、今年には「世界人権宣言」採択50周年です。当公民館もこれを機に、さらなる差別意識の撤廃を目ざして「憲法講座」の充実を図っていきたいと思っております。

実践記録シリズ(30)

「連携」と「地域の特性」がテーマ

町民自らが作る学習機会 生涯学習推進モデル事業

『いたくらふるさとマナビイ講座』2年次



郷土料理講習会

町民会議の議論の中から板倉町は、平成7年度・8年度の2カ年をかけて、生涯学習推進計画(しあわせ学習推進プラン)を作りました。町内の各種団体、町民代表約40人が集まり、し(自然・環境)、あ(産業・生活)、わ(健康・融和)、せ(文化)の4部会に分かれ、「板倉町民から、生涯の各時期にどんな

ことがらを学んでほしいか」、「町民一人一人が人生を楽しむ、しあわせになろうとするには、どんなことを学ばなければならぬか」を視点に、大いに話し合いました。この話し合いの中で分かった学習課題は、地域の特性も十分取り入れられたものでした。

そこで、前述の町民代表で組織する「生涯学習推進会議」では、これらの課題を、具体的な学習メニューの中に生かす学習機会を町民の皆さんに提供しようということになり、そのモデルケースとして「いたくらふるさとマナビイ講座」が生まれました。



健康フェア

社会教育・公民館だけでなくこのような経過で生まれた講座ですので、し・あ・わ・せ4部会のメンバーが集まって、部

計画ができあがります。役場の各課も、それぞれの行政課題に応じて計画づくりに参画します。このようにしてできあがった学習計画は、従来の社会教育・公民館で行う学習プログラムと中身は似ていても、出来上がるまでの過程が大きく違います。生涯学習推進会議に結集する各

- 種団体、行政が「連携」しながら、町民の皆さんに学習機会を提供することが、大きな意義であると考えています。
- 「人・自然・文化」地域の特性を生かす
- 昨年の講座の内容は次のとおりです。
- ① プナの実フェスティバル
し(自然・環境) 部会事業
【ねらい】光ヶ原高原の自然を体験することを通して、ふるさと板倉を再発見する。
- ② 郷土料理講習会
あ(産業・生活) 部会事業
【ねらい】郷土料理を学習することを通して、ふるさと板倉の食文化について学習する。
- ③ 健康フェア
わ(健康・融和) 部会事業
【ねらい】住民のニーズに対応した健康づくりを推進する。
- ④ 高齢者障害者の疑似体験教室
せ(文化) 部会事業
【ねらい】障害の疑似体験を通して、障害者や高齢者の正しい理解を図る。
- ⑤ 朴斉先生の心に学ぶ
せ(文化) 部会事業
【ねらい】多くの人材を育てた板倉町の偉人・増村朴斉先生の偉業を学習することを通



プナの実フェスティバル

して、ふるさと板倉の教育について考える。
おわりに
このように、板倉町の生涯学習推進のモデル事業として取り組まれた「いたくらふるさとマナビイ講座」は、地域の「人」「自然」「文化」を生かす学習です。
本年度も、10月の板倉町生涯学習推進月間を中心に、①プナの実フェスティバル(し部会)、②北部工業団地見学会(あ部会)、③ウォーキング指導会と健康ウォーク(わ部会)、④ふるさと歴史シンポジウム(せ部会)、などが行われます。

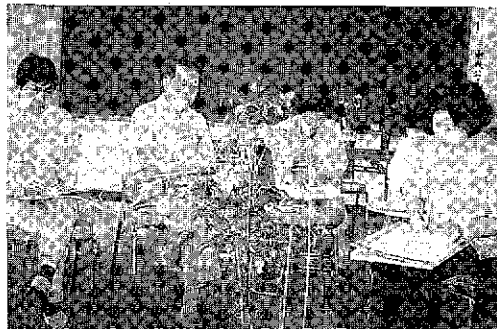
サークル交流

いつも初心で いつも目標を持って

日本画サークル「彩美会」

去る十一月一日から三日間開催された市美術展も、わが彩美会会員から日本画部門で二名の受賞者を出して無事終了した。

日本画サークル「彩美会」が結成されたのは平成七年度末のことである。当市では、公民館で開設される絵画教室に二年間在籍した受講生が、教室を離れて独自のサークルを結成して、より創作技能を高めるよう奨励している。わが彩美会もそのよ



うな経緯で誕生したサークルである。現在会員は六名と誠に家族的な人数であるが、指導者には画歴豊かな村上美術協会会員の渋谷敏雄先生をお迎えし、和氣藹々の中にも、常に向上心を燃やして制作に取り組んでいる。一応年間を通しての制作活動を原則としているが、市美術展開催四カ月前あたりから、集中して取り組むようにしている。多忙の中を、親身になって指導下さる渋谷先生のご熱意に感えるべく、常に初心にかえり市美術展出品への大きな目標をもって制作に動いている。

(村上市・同会)

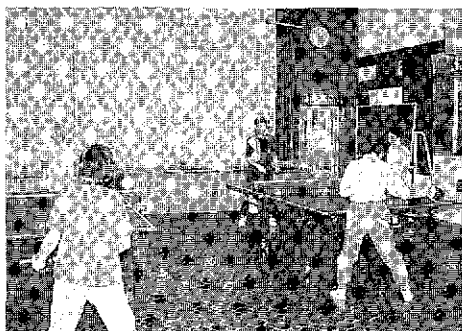
本間元雄 記

心身爽快・光る汗

輝くオレンジ!!

卓球サークルオレンジ

亀田町公民館にいくつかあるクラブの一つに卓球があります。昨年春のある日、妻から「公民館分室で卓球をやっているから一緒にやろうよ」と誘われて始めましたが、実はこのサークル、二十数名の女性だけでした。六十の手習いで気恥ずかしい思いでしたが仲間入りさせてい



ただいて、皆さんから相手にももらって何とか付いているこの頃です。

毎週水曜日の午後、子育てのお母さん、子離れたお母さん、孫のいるお母さん(失礼)たちが集まり、みんな懸命に直径3.8cmのオレンジのボールを追って快い汗を流しています。また卓球の合間には和やかな会話が弾み、午後のひと時を過ごします。今では男性も四人になり、中に指導者も加わって一段と練習に熱が入り、腕に磨きを掛けています。時には身障者卓球のボランティアにも出かけます。皆さんは日頃卓球を通じて若さと健康を保ち、いつも輝いています。(同サークルいつもボールに操られてる 石本康二 記)

長岡市中央公民館

主事 穂刈美枝 さん

中央公民館に勤務して三年目になる彼女は、ウォーキング公民館(!!)として、今や職員の大絶大な信頼を集める華の存在である。ながおが市民大学の企画と運営をはじめ、パソコン操作から経理事務、はては農園の草取りまで、悩める職員の間は彼女のもっとで即座に解決される。私自身何度助けてもらったか分からないが、



「穂刈が急いでいる姿を見たことがある」と館長が言ったことなす彼女にとって、慌てることには縁がないようだ。彼女は「そんなことはないよ」というが、それは謙遜というものだろう。(長岡市生涯学習・体育課 田村 均 記)

素顔拝見

岩船郡神林村生涯学習課

主事補 山田ひろみ さん

神林村のシンボル、パルパーク神林の紅バラ一輪、一部の紳士職員からは「山ちゃん」の愛称で呼ばれる職場の紅一点。



棟にして、デスクの前左右は百戦錬磨の中年男性ばかりなり。お気の毒の見本にあれば、ストレス充満、ぐちりひねるも納得情況。でも、そんなことなど取越し苦勞。冷静沈着、微笑み、気づかい。話術も巧みに男性を手玉。昼の休みはテニスに興じ、司書資格を生かして図書館も支援。社教主事講習熟望中の伸び盛る期待の星。

だが、美しくもいざれ散るの

(神林村生涯学習課 斎藤 尚 記)

配布資料紹介

われらの北方領土

外務省大臣官房国内広報課

北方領土返還要求連動員会議総会・県民大会開催の折配布された資料です。

内容は、①第二次大

次大戦終結までの時期、②サン・フランシスコ平和条約、③日ソ共同宣言、④国交回復後の経緯、⑤最近の動き、⑥北方領土返還の実現に向けて等で構成されております。

報告資料紹介

部落解放第14回新潟県研究集会報告集

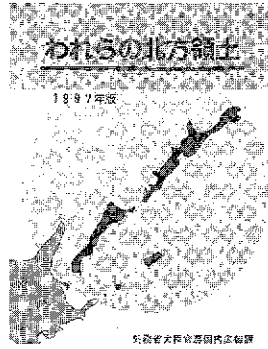
部落解放第14回新潟県研究集会実行委員会

長岡市で産声をあげたこの研究集会も、今年で第15回目を迎えました。

9月27日(日)新潟市立白山小学校で開催された折配布されたのがこの報告書です。

一読して、何と云っても記念講演が、圧倒的な迫力をもって胸に迫って参ります。「部落問題の今・昔」一人権文化の創造を」と題しての、中山英一先生

そして資料として、⑦北方領土地勢図、⑧関係条約・文書等、⑨日ソ国交回復以後の日ソ・日ソ関係主要事項年表等が記載さ

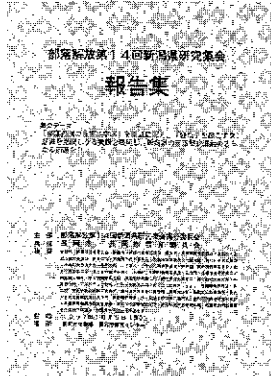


れております。

系統的に時間を追って記述されておるので、読み易く、分かり易い資料です。

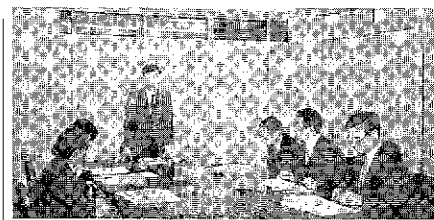
98年4月の川奈における日ソ首脳会談を受け、98年11月12日、モスクワに於ける小淵首相とエリツィン大統領との首脳会談で①国境画定委員会と共同経済活動委員会の設置、②旧日本人島民の四島への自由往來の実地合意しているようです。

のお話は、少年時代からの差別体験、とくにお兄さんとおしとの具体的事例等は、すごい説



得力です。一冊の本との出会いからこの運動にかかわりながら、生活と生命の問題に正対された姿が浮かび上がります。人を差別することは、人間にとって一番恥ずかしいことである、という結びの言葉が光ります。これを受けて第1〜第4分科会での具体的な討議の模様記載されております。研究集会の今後の発展を祈念します。

公民館月報編集委員会開催される



開催予定が当初より遅れ11月27日(金)新潟市中央公民館で開催された。今井会長の開会あいさつに次いで、今年度後期の月報編集計画について協議された。とくに、特集ページの記事と実践シリーズの記事を中心に行った。そして、前期掲載記事への反省、評価を踏まえ、今後の要望等についても協議された。なお、月報紙面B5版からA4版への移行については、今後引き続き検討を加えていくこととなった。次回開催は、2月中旬頃を予定している。

あとがき

◇12月は、人権の月です。今年度も、何とか人権・同和教育の特集を組むことができました。ご協力いただいた上越市、新潟

表紙解説

昭和初期まで縁日をにぎわせた大道芸のぞきからくり

屋台の前には凸レンズがはめ込まれたのぞき穴があり、客はこの穴をのぞく。のぞき穴から絵をみると、その狭い視界にパノラマのように絵が広がる。

(巻町公民館)

発行所 新潟県公民館連合会 〒951-8053 [新潟市川端町2-9・県林業会館内] [TEL・FAX (025)224-6073] 発行人 会長 今井 昭 友 編集人 事務局長 鈴木 友 夫 [定価1部150円 年共1,800円]